



姉ちゃんは
ふたなりチン○ポ
家畜



ふたなりチン○ンが生えた姉ちゃんの
仕事は、おいしいふたちん牛乳を搾ること。



基本CG6枚
本編52枚

その味と栄養価の高さから今や絶大な人気を誇っているふたちん牛乳。

それを生産しているのは、牧場にいる牛さん。

通称ふたなりチンポ家畜の皆さんです。

ですが彼女たちの中には、ふたちん牛乳の宣伝、ふたちんカフェでのバイトなど、様々な理由から牧場の外にいる人もいて…。

キーンコーンカーンコーン

ふう、やっと今日も学校が終わった。
さっさと家に帰ってゲームでもしよう。

しょうくん！

…今誰かに呼ばれた？

おい見てみるよあれ

すっげえ

お帰り、しょうくん!

げっ…姉ちゃん…

見ろよあの格好

やば、ほとんどおっぱい丸出しじゃん

ムチッ

今日は近くで仕事だったから迎えに来たよー
学校どうだった?

ちよ、ちよっとこっち来てよ!

えー?

ムチッ



急にどうしたの？

いや…その…学校とかあんま来ないでよ…

どうして？ 昔は私が迎えに行くと言ってくれたのに

…いや、だって…その…



あー、そっか。

ごめんね、お姉ちゃんしばらく牧場行ってたから、
しようくんも大きくなってそういうの恥ずかしい年頃になっちゃったかー

だからー、そういうこと言わないでってー！

あはは、ごめんごめん
とにかく今日は一緒に帰ろうよ

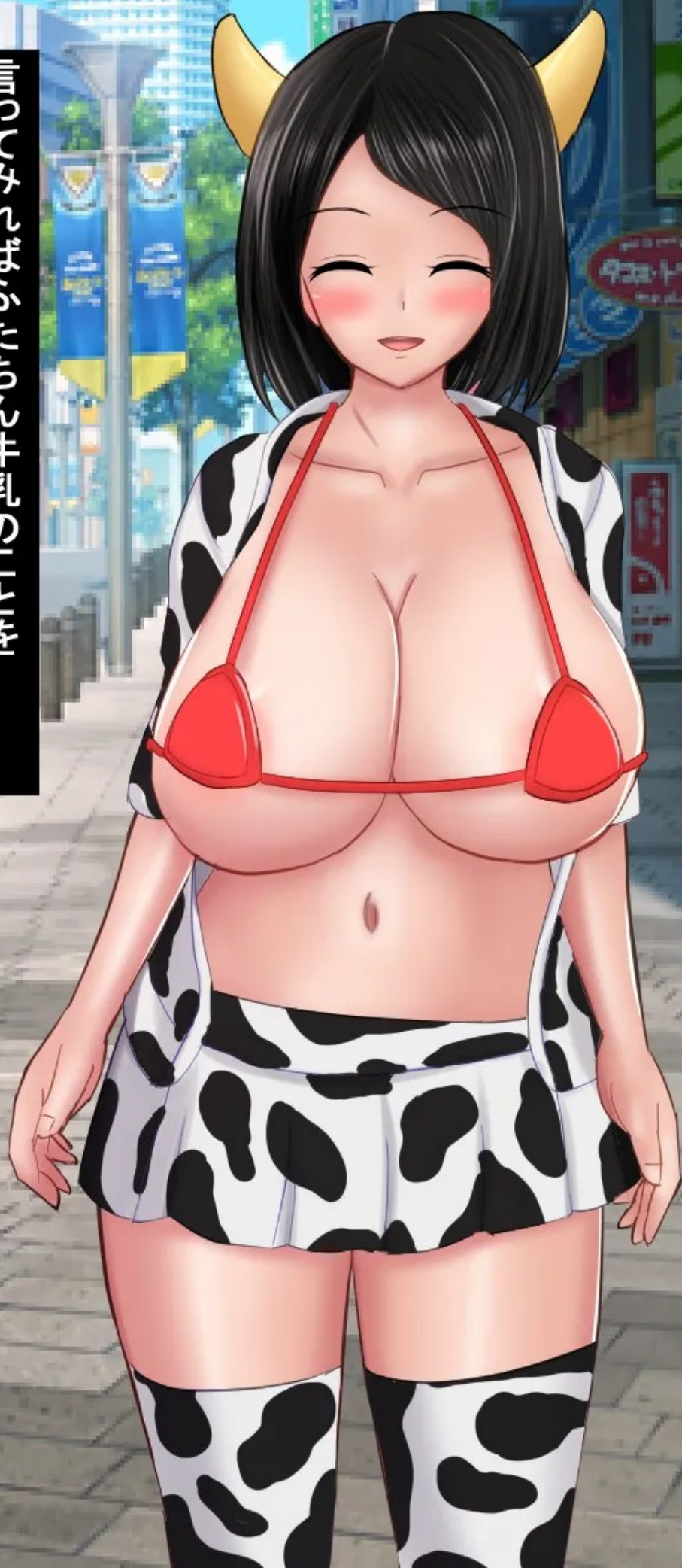
…まあいいけど



僕の姉ちゃんの仕事は、ふたちん牧場の営業だ。

営業といっても色んな家に「買ってください」と頭を下げて回るわけじゃなくて、近所の学校とか病院とか、そういうところに行って実際に牛乳を搾る様子を見せたり、

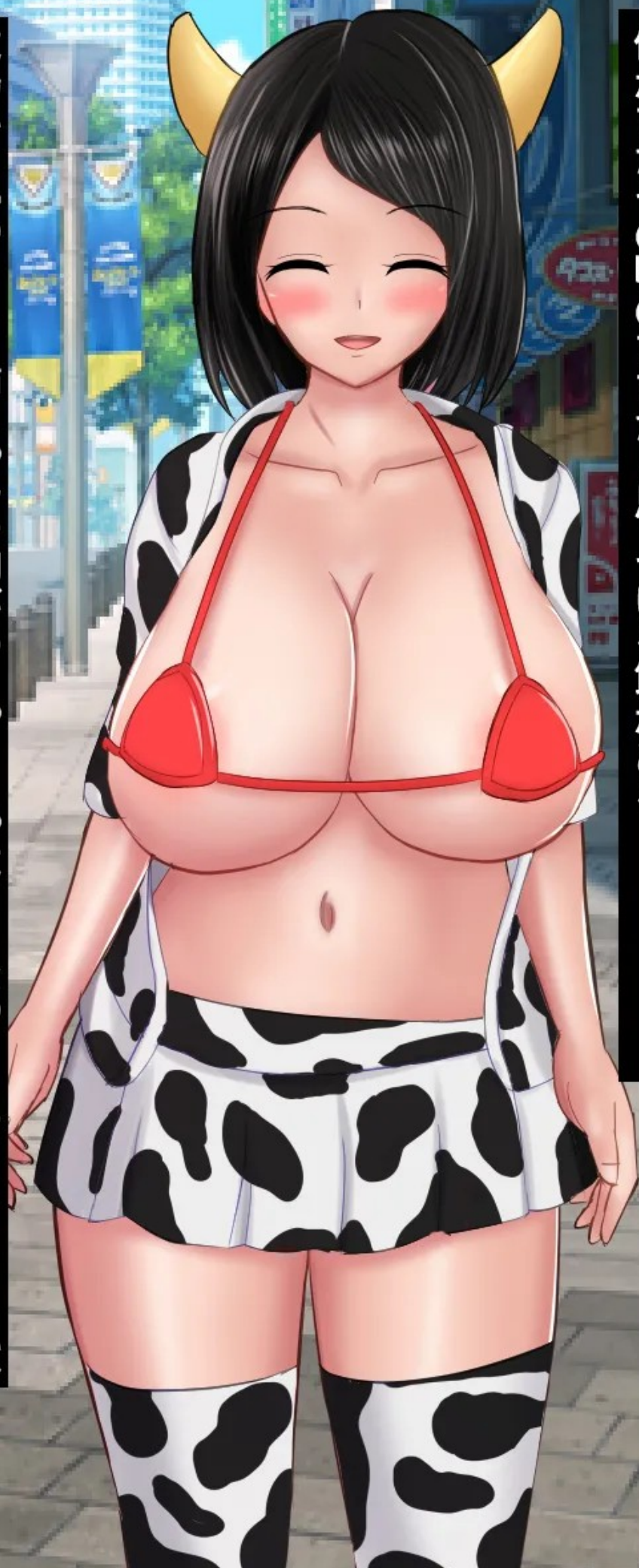
言ってみればふたちん牛乳のことをよく知ってもらおう、宣伝係のようなものだ。



今日はたまたま隣の学校で仕事があったらしくて、
僕の下校時間に合わせて迎えに来てくれたらしい。

姉ちゃんは僕がまだ小さかった頃に牧場に行ってしまったから、
僕がまだその頃のままだと思っっている節がある。

牧場から帰ってきた姉ちゃんの胸がめちゃくちゃ大きくなってたのと同じくらい、
こっちも成長してるに決まってるのに



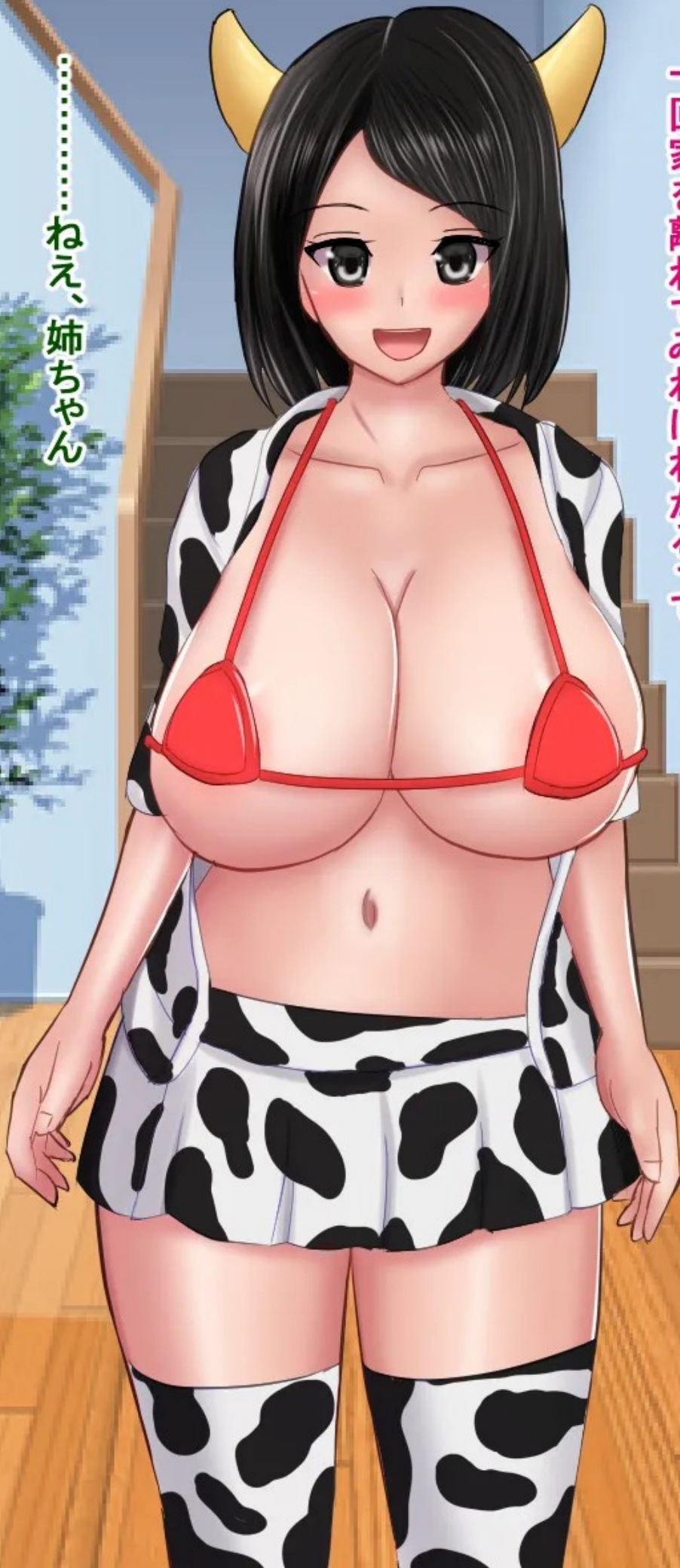
ただいまー。あー、やっぱり我が家はいいなあ

それ毎日言ってるじゃん。

一回家を離れてみればわかるって

.....ねえ、姉ちゃん

ん？ なに？



.....あれ

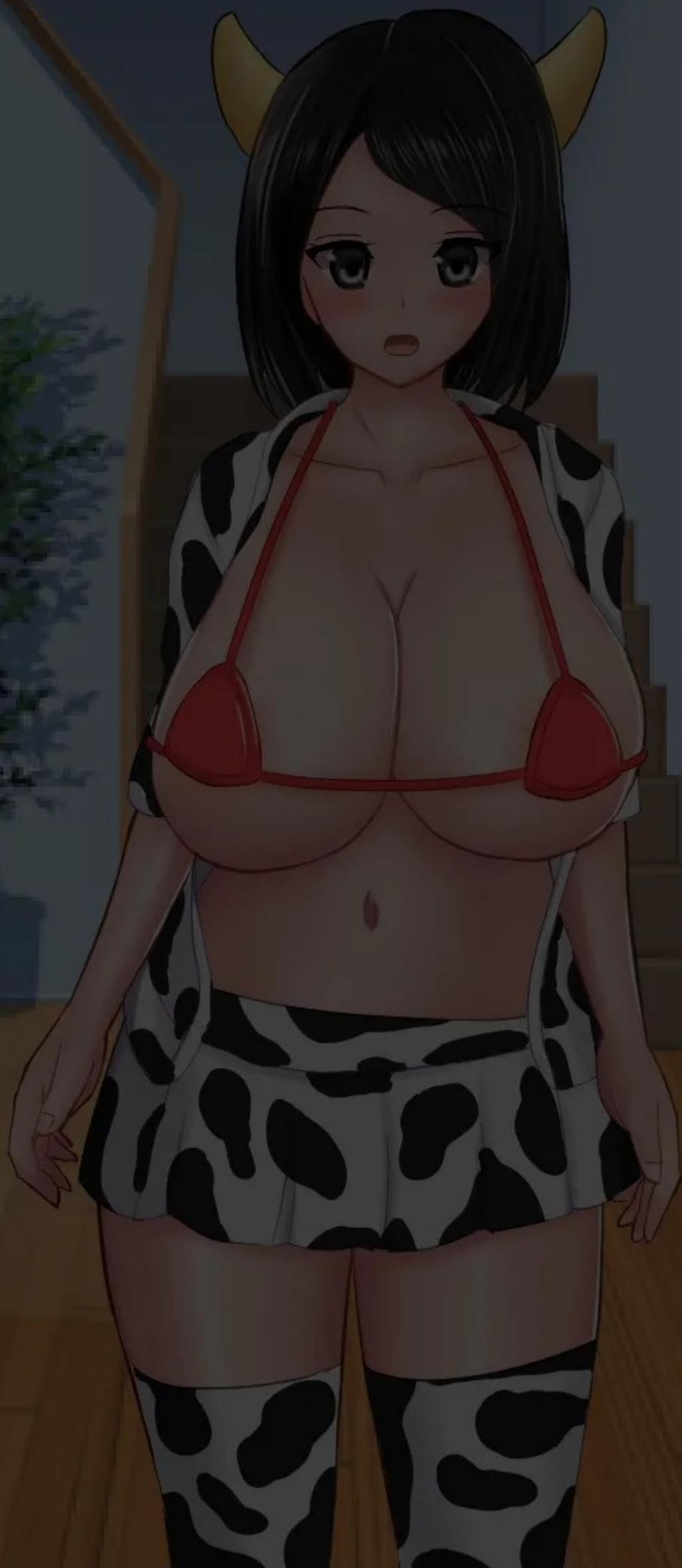
あれ？

だからその...

.....ああ、はいはい。もうしようがないなあ
じゃありビンゲで待っててね、ちよっと準備してくるから



はい、じゃあ「ジュ」に寝転んで？



もうしょうくん、ほんとこれ好きだよね

べ、別に姉ちゃんのが好きなわけじゃないし

よこよこ

ただ、喉乾いただけだし

はいはい。欲しかったら、おっぱいでもいいんだよ？

チュパッ

チュパ

チュパ



そっちは子供が飲むものでしょ？

ちゅぱちゅぱ

あはは、遠慮しなくてもいいのだ

ちゅぱちゅぱ

ちゅぱ

ちゅぱ



これが僕の日課。
姉ちゃんはどんなに仕事でたくさん牛乳を出しても
帰った後に出す僕の分はきちんと取っておいてくれる。

姉ちゃんのチンチンは、ふたちん牛乳と
同じくらい甘くて濃い匂いがしていて、
まるでキャンディーみたいだ。

ハアハアハア

ハア

チンチン

チンチン

しようくん、そろそろ……出ちやいそう
大丈夫？ あんまり、こぼれないようにね





姉ちゃんはふたちん牛乳を出すとき、
決まってものすごく体を震わせて、
顔を赤くしながら一口では飲み干せないくらいの量を一気に出す。

最初は僕も心配したけど、
別に苦しかったり痛かったりするわけじゃないらしい。
ただ、牛乳を出すときの姉ちゃんはちょっとHロい。



はあはあ、しょうくん美味しかった？


うーん、まあまあ

(嘘だ、ほんとはすごくおいしかった)

ハア
ハア

あはは、そっか。ごめんね
今日は学校でいっぱい出しちゃったから、
ちよっと薄かったのかな





その言葉はなぜか僕の心にズキンときた。
姉ちゃんの仕事をよくは知らないけど、やっぱり外でも「うーうー」としてんのかな…？

あ、そうだ。そういえば明日しょうくんの学校に行くことになったよ？

私たちふたなりチンポ家畜の主な仕事は、
美味しいふたちゃん牛乳を搾ること。

でも希望を出せば、こうして牧場の外に出て、
ふたちゃん牛乳普及のための活動に参加することもできます。

今日は私の大好きな弟、
しようくんの学校に行くので、いつも以上に張り切ってます。

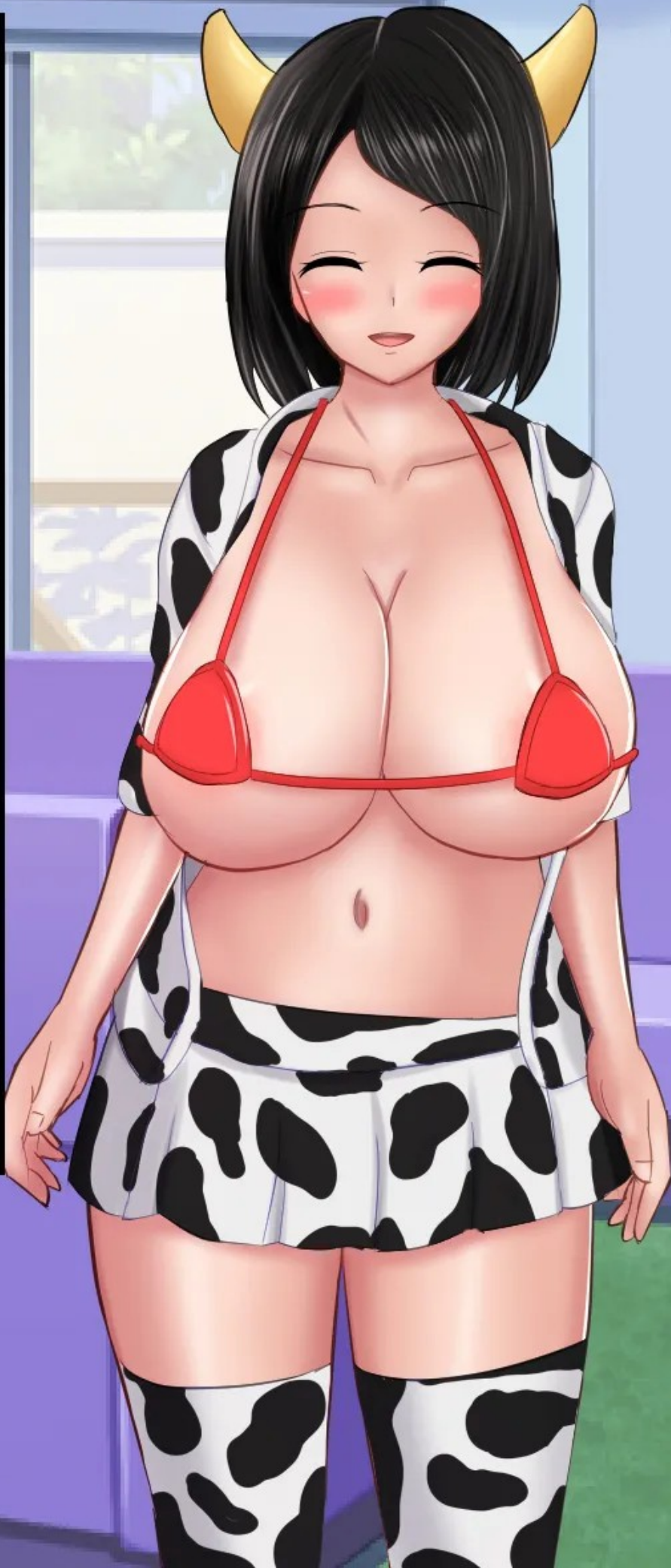
でもその前に……



しょうくんの朝ごはんの用意しなくちゃね。

シリアルを用意してっと。

私の朝一番の一番濃い牛乳は、いつもしょうくんのために使います。



ふーふー、しょうくん…しょうくん…。

あまり人に言う「とはありませんが、私たちが牛乳を出すときの感覚というのは、頭の中で火花が弾けるような、そんなものすごい快感がせりあがってくるような感じですよ。

そしてそれは、自分の大好きな人のことを思えば思うほど強くなります。



しょうくん、あ、出る…出るよ！

だから私の大好きなしょうくんを思いながら
しょうくんのために出すときの牛乳は…



一番多くて、一番濃くて、そして一番気持ちよく吐けます。

おっぱい
いっぱい
いっぱい

おっぱい
いっぱい
いっぱい

おっぱい
いっぱい
いっぱい

おっぱい
いっぱい
いっぱい



はあはあ……

おはよー、姉ちゃん

あ、おはようしようくん……

あのね、朝ごはん
準備しておいたから
ちゃんと食べるんだよ？

うん、ありがとう

じゃお姉ちゃん先に行ってるからね





後から知ったことだけど、

その日姉ちゃんが僕の教室に来たのはまったくの偶然だったらしい。

もともと来るはずだった人が体調不良で、

たまたま近くに住んでいた姉ちゃんが代役に選ばれた。

そして、さらにたまたま姉ちゃんの担当することになったクラスが僕のところだったんだ。

はいみんなー、じゃあよく見えるところに集まってー。
今からみんなの大好きなふたちん牛乳を搾っていくからねー

わいぞ
わいぞ

うわあ…

すげー…

姉ちゃんは教室に入ってすぐ僕のこと気づいたみたいだけど、
軽く目配せをしただけで、特別に僕のことを呼んだりはしなかった。



これが、ふたちゃん牛乳が出るオチンチンです。

どうかな？ みんなのとは比べるとちよっと大きいかもしれないね？

これを、ぎゅっと握ってこすると、みんなが飲むふたちゃん牛乳が出るんだよ

ほら、おつきくなったでしょ？

おつき

お

でけえ...



姉ちゃんは、僕のことなんてまったく気にかけてないという様子で
楽し気に、でも淡々とみんなの前で話していた。

もちろん、仕事だからというのには僕も理解している。

でも、僕の前以外で自分のチンチンをゴシゴシとこすったり、
牛乳を出すときの姉ちゃんのあの顔をクラスみんなに見られるのは、
なんだか嫌だった。





出る...出るよ!!
みんな、よく見ててね!

わっわっ

シクシク

シクシク

シクシク

出るよっ!
出るよっ!



あ……はあ……

こ、こんな風にふたちん牛乳を出しています。
みんな見えた？

え？ 後ろの子があんまり見えなかった？

じゃあ、後ろの子前に来て、も……もう一回出すからね……？

普段と違う姉ちゃんの顔、僕以外のために搾り出された
姉ちゃんのふたちん牛乳。

それを見た僕は……



はあ、今日のお仕事も大変だったー
ごめんね、しろうくんのこと知らんぷりしちゃって

? どうしたの??



え、ちよつ!

きやつ

AAAAA



しよくん急にどうしたの？
牛乳だったらそんなに焦らなくてもいつもみたいにあげるから

姉ちゃん、今日はもっといっぱい飲ませて

え？

？

？

いぢッ



きゅっ！

(なにこれ、しょうくん突然なんでこんなこと!?)

(こんなに強く、激しくこすられちゃうなんて)

しょうくん、ちよつと待っ——

んんん

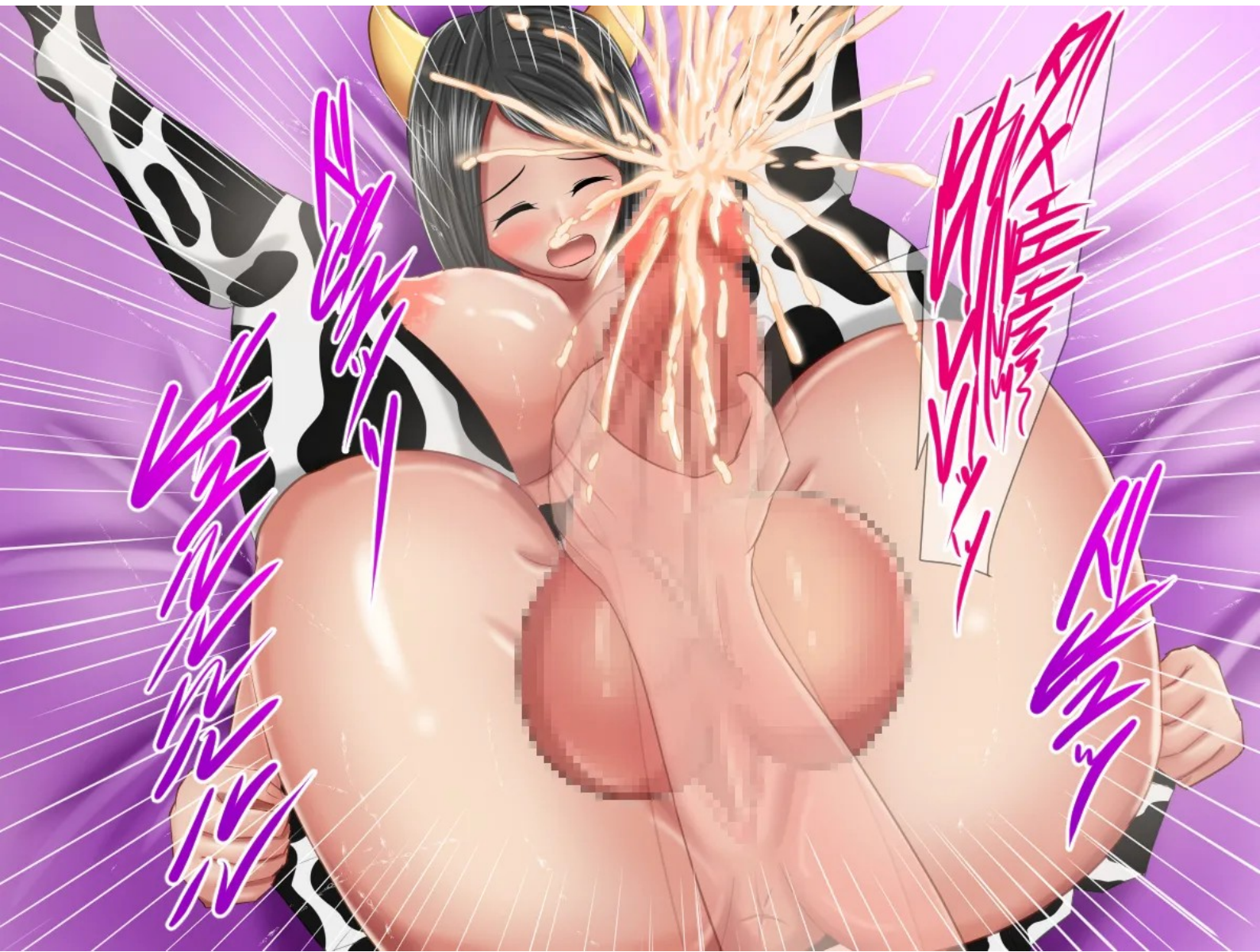
シク

シク

シク

シク







はあ、あつ...しよう...くん
ダメ、だよ...ちゃんと飲まなきゃ.....

ドロッ

へっ？

え、しろうくん？ 今日はまだ終わりに…

姉ちゃん、学校であんなに出してたんだもん

おしりやんぱんぱん？



ダメ、これ以上はほんとに無理だからっ、あっ、ひゃあ

姉ちゃんがいっぱい出して
チンチン空っぽにしちゃえば、
しばらく仕事もお休みできるでしょ？

そんなにやっ

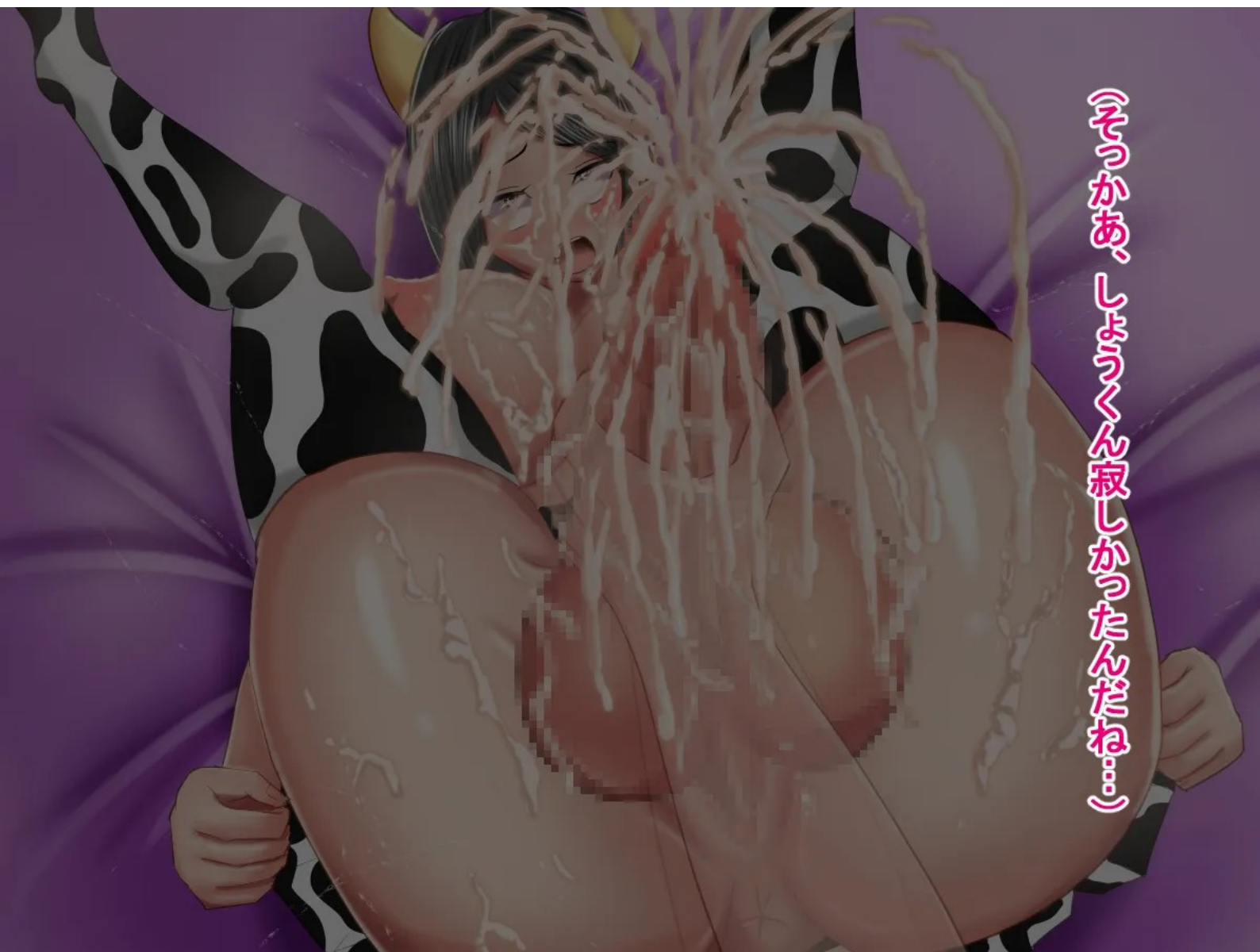
そうすれば

もう、いきなりどっか行ったりしないよね？





（ぞっかあ、しょうくん寂しかったんだね…）



ごめんね、お姉ちゃんに突然オチンチンが生えてきて、
牧場に行かなくちゃいけなくなったとき、しょうくんまだ小さかったもんね

うん…

お母さんたち仕事で遅かったし、私がいっつも迎えに行ってあげてたから

うん……

でもお姉ちゃん、もうどこにも行かないから

うん……



ねえしろうくん、お姉ちゃんの部屋おいで

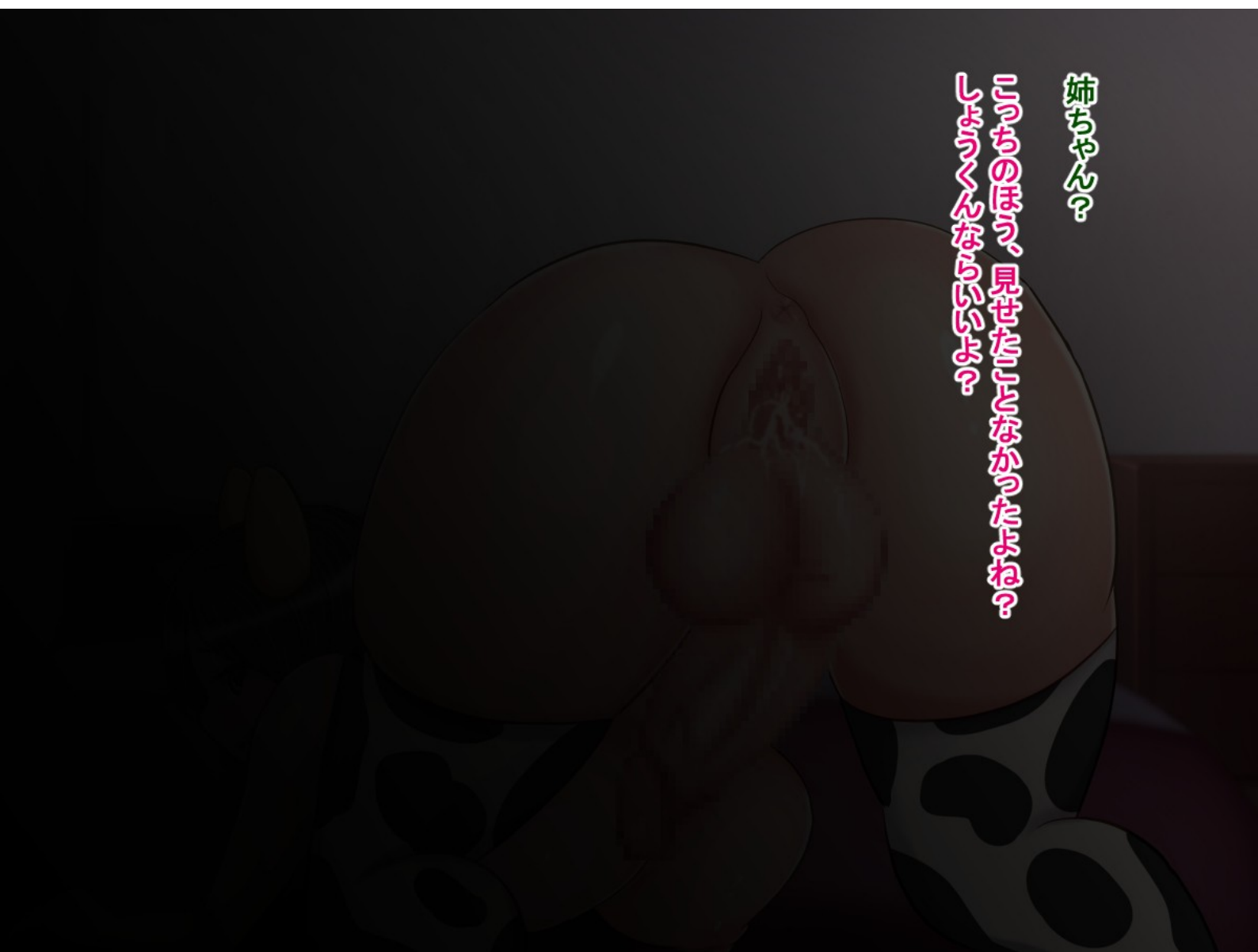
え？

お姉ちゃんも、しろうくんのミルク飲みたくなっちゃった



姉ちゃん？

こっちのほう、見せたことなかったよね？
しょうくんならいいよ？



姉ちゃん…すごい、僕と同じ金玉のすゝめのお尻、
お尻の穴と違う穴がある……

なんかこれ見ると、
僕のチンチンがムズムズしてくる……

しょうくん？
しょうくんのミルク、ニジニ注いで

うん……い、いくよ？



あつ、あつたかい……

んんっ!!

すっ、しょうくんのが
私の中かきわけて入ってくる……

姉ちゃん、姉ちゃん!





姉ちゃん、もうダメ！
ミルク、出そう！

いいよしょうくん、お姉ちゃんの中に
いっぱい出して！

ハ
チ
ツ

ハ
チ
ツ

ハ
チ
ツ

ハ
チ
ツ

しょうくんの一番濃い
ドロドロのミルク出してええ！

ハ
チ
ツ

ハ
チ
ツ

ハ
チ
ツ

ハ
チ
ツ

ハ
チ
ツ

ハ
チ
ツ

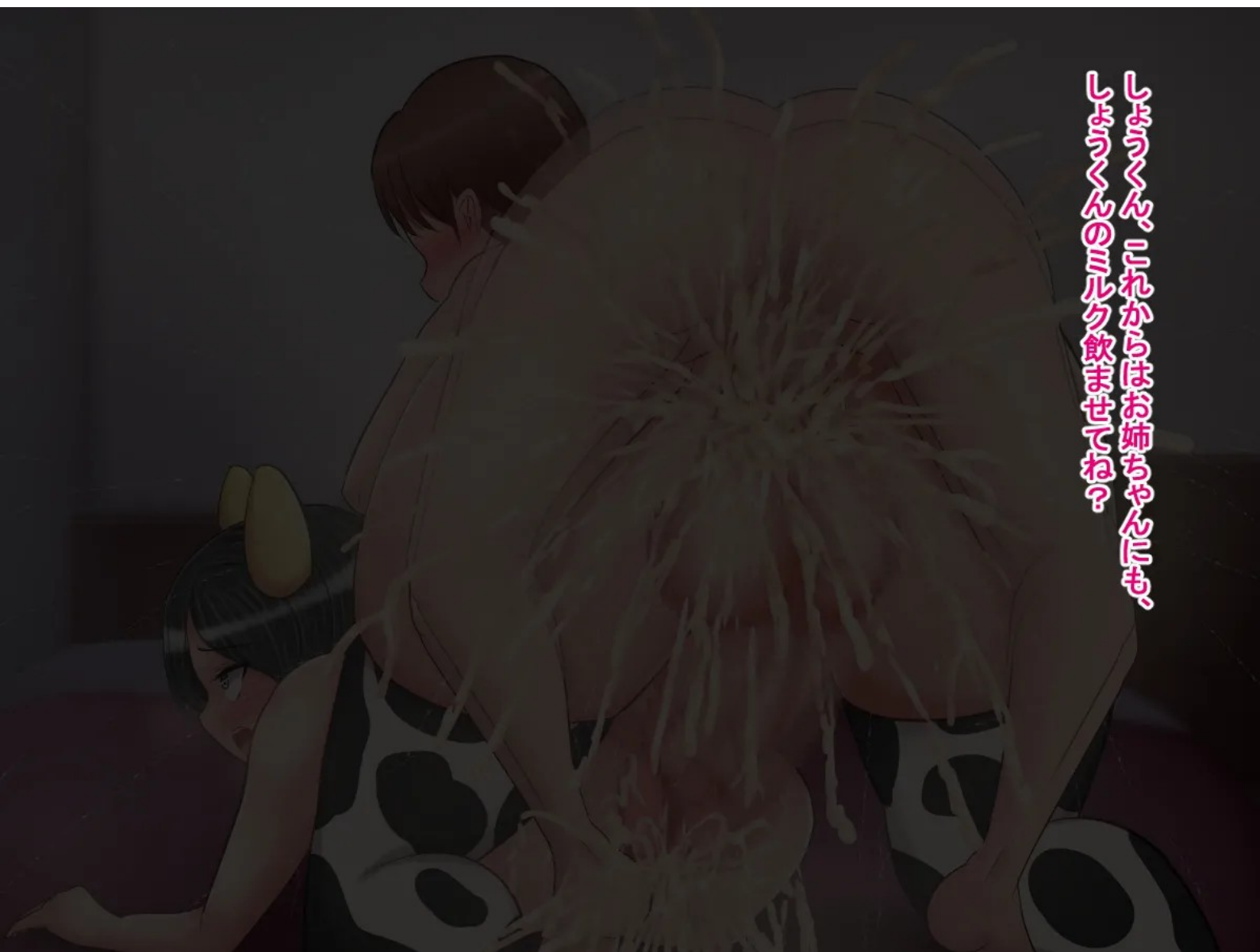
ハ
チ
ツ

ハ
チ
ツ





しょうくん、これからはお姉ちゃんにも、
しょうくんのミルク飲ませてね？



しょうくん起きてー朝だよ！

げ、姉ちゃん！

今日も牛乳いっぱい用意しといたからね！

姉ちゃん昨日あんだけ出してたのにもう復活したの？

ま、これでも牧場で鍛えられたからね

それより放課後、期待してるね？



え、ちよ…：僕はそんなすぐには

じゃあねー

それから、僕が姉ちゃん専用のシヨタチンポ家畜になってしまっただけに
そんなに時間はかからなかった。

FIN